

◆ 新収蔵資料紹介（令和6年度6月）展示解説シート ◆

さんちゅう

「三中新聞ついに誕生」-創刊号 昭和22年6月20日発行-

会期：令和6年6月4日(火)～6月30日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年3月26日付けで故近藤重信氏の遺族より寄贈を受けた、「三中新聞」(久留米市立第三中学校発行)を初公開します。

重信氏は、昭和22年(1947)4月に、新制中学校として開設された第三中学校に、昭和23年(1948)から在学しました。「三中新聞」が発行された3年次は、文芸部に所属し、三中新聞編集部長を担っています。本資料は、昭和25年(1950)6月20日に、久留米市立第三中学校(現・櫛原中学校)で発行された学校新聞の創刊号です。

久留米市では、昭和22年(1947)4月に始まった新学制による六・三義務教育により、新制中学校として第一中学校～第六中学校までが開設されました。そのうち、第三中学校は、櫛原町(現・東櫛原町)の久留米商業高校内に開設され、4月16日に行われた開校式には、南薫・節原両校334名が入学しました。

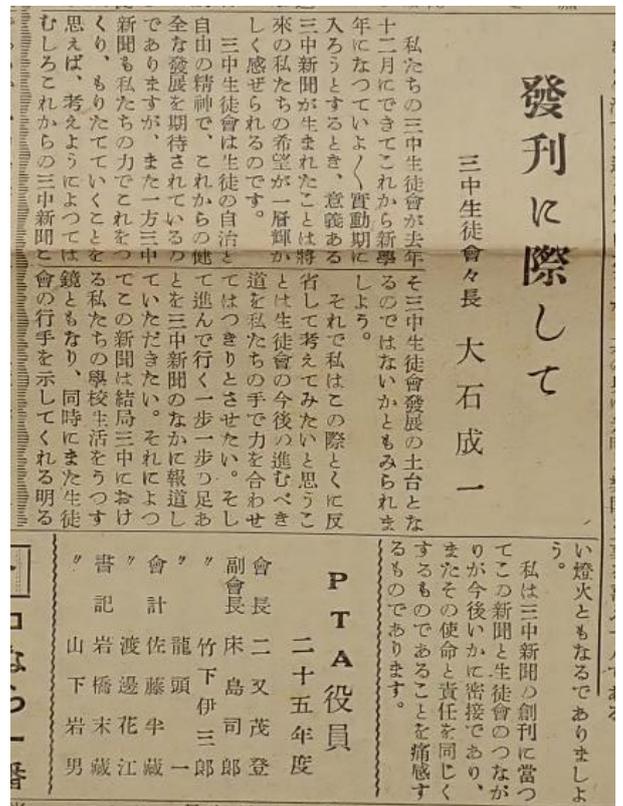
昭和26年(1951)4月1日に、第三中学校は櫛原中学校と改称されています。

紙面は、冒頭の学校長訓辞に始まり、部活動紹介や生徒の投稿記事の他、学校に伝わる七不思議、敷地内で発見された甕棺の紹介、修学旅行の思い出などで構成されています。

学校長による訓辞です。

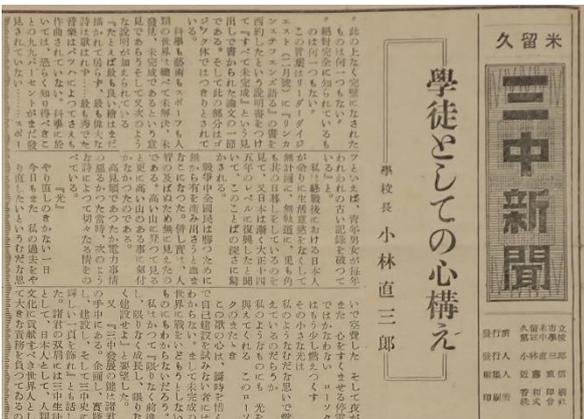
「私はかつて『限りなく前進し、限りなく成長し、限りなく建設せよ』と要望した。…現実を眺める傍観者ではなく、自ら舞台に上つて此の役割を果たすべきである…」と学生としての心構えを説いています。

末尾に、昭和22年(1947)に始まった三中における新聞発行史に触れ、3年の中断を経て発行された三中新聞への期待と喜びが綴られています。



●「発刊に際して」

前年の生徒会発足に引き続き、三中新聞が発刊されたことに対する生徒会会長の寄稿文です。「生徒会の進むべき道を私たちの手で力を合わせ…進んで行く一步一步を三中新聞の中に報道し…」と語り、三中新聞の果たす役割を「学校生活を写す鏡」「生徒会の行く手を示してくれる明るい燈火ともなる」と期待しています。



●「生徒としての心構え」

